

In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University merge to Osaka Metropolitan University

Title	先端的都市研究ブックレットシリーズの 刊行に寄せて / 目次
Author	阿部 昌樹
Citation	URP「先端的都市研究」シリーズ. 35 巻
Published	2022-03-15
ISBN	978-4-904010-50-1
Type	Others
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学都市研究プラザ
Description	紀伊半島の賦活に向けた地域社会誌の試 みと地理情報分析：和歌山県における実 践を振り返る
DOI	

Placed on: Osaka City University

Osaka Metropolitan University

URP 先端的都市研究シリーズ 35

**紀伊半島の賦活に向けた
地域社会誌の試みと地理情報分析
—和歌山県における実践を振り返る—**

荒木 一視・湯山 篤・上田 光希・水内 俊雄 編

先端的都市研究ブックレットシリーズの刊行に寄せて

本シリーズは、大阪市立大学都市研究プラザが、2014年4月に文部科学省の共同利用・共同研究拠点の1つに採択され、「先端的都市研究拠点」として活動を開始したことを契機として、その「先端的都市研究拠点」としての共同研究の成果や、それを踏まえた教育実践の成果を、多くの人々に共有していただくことを目的として、2015年3月に刊行を開始したものである。

都市研究プラザは、大阪市立大学が創設以来蓄積してきた都市研究の実績を踏まえて、2006年4月に創設された。そして、その翌年の2007年に、文部科学省グローバルCOE拠点の1つに選ばれ、「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」というテーマを掲げて、国際的な研究拠点の形成を目指した活動に取り組むことになった。

その成果を受け継いで、2014年には、文部科学省によって共同利用・共同研究拠点の1つに認定され、「先端的都市研究拠点」としての活動を開始することになった。共同利用・共同研究拠点としての認定は、6年間を1期とするものであるが、第1期の最終年度である2019年度末に認定が更新され、2020年度から第2期の活動を開始し、現在に至っている。

この「先端的都市研究拠点」としての活動の一つに、「公募型共同研究」がある。学外の研究者に、都市研究プラザの専任教員や兼任教員を含む共同研究グループを組織して、共同研究の提案をもらい、審査のうえ採択された共同研究には、研究資金の一部を助成するというものである。毎年度複数の研究課題が助成対象に採択され、それぞれが興味深い研究成果を産み出している。

そうした「公募型共同研究」の成果を、研究者のみならず、都市の現場で社会問題の解決に実践的に取り組んでいる人々にも、わかりやすいかたちで伝えることができないかと考えたことが、本シリーズの刊行を決めた、最も大きな理由である。そして実際、本シリーズを構成するブックレットの多くが、採択された「公募型共同研究」の成果を、平易な文章で伝える内容となっている。

また、社会生活のあらゆる側面においてデジタル化が急速に進展する今日の状況を踏まえるならば、多くの人に読んでもらいたいブックレットは、誰もが

アクセス可能なように、ウェブサイトに電子書籍の形式で公開することが望ましいという判断から、近年に刊行されたものは、刊行後ただちに、都市研究プラザのウェブサイトでもPDFファイルの形式で公開している。それに加えて、過去に刊行されたものについても、そこに収録されている文章の多くが、大阪市立大学の機関リポジトリから入手可能となっている。

都市問題に関心を寄せる研究者や都市の現場で活動する方々の多くが、本シリーズを構成するブックレットをお読みにになり、そこから何らかの示唆を得て、それを自らの研究や実践に活かしていただくことを、強く願っている。

大阪市立大学都市研究プラザ所長

阿部 昌樹

目次

第1章	和歌山県調査の振り返りと本書の構成 水内 俊雄	1
第2章	和歌山県の過疎地域における集落の維持・活性化と再編 —明治行政村でみた人口動態と推計 熊谷 美香・小本 修司・山神 達也・水内 俊雄	16
第3章	戦後和歌山県政の思潮 —社会資本整備を中心に 上田 光希	39
第4章	「林産業と福祉の連携によるレジリエントな中山間地域の賦活と 経済循環の可能性の追求」プロジェクトの歩み 湯山 篤・西野 雄一郎・徳尾野 徹・岸本 嘉彦・岡本 滋史・ 石山 央樹・水内 俊雄・上田 光希	57
第5章	みなべ町岩代地区における救援物資輸送ルートを検討 —自治体の救援拠点と避難所と被災世帯 荒木 一視・岡田 ひかり	83